

富士市ふじかわスマイルクラブ 古代体験レポート

静岡県埋蔵文化財センター

平成30年8月23日(木)

8月23日(木)、富士市のふじかわスマイルクラブを訪ね、「土器の分類」と「はにわ(土製品)作り」に取り組みました。事前学習は済ませてはいたものの、はじめて見る本物の土器に興味津々、さらに本物の土器片に触れながらの分類体験には意欲的に取り組みました。その後のテラッコッタ粘土を使ったはにわ作りでは個性豊かな土製品を完成させることができました。本物に触れたこの体験学習がこれからの生活や学習に生かされることを期待しています。



土器分類体験



縄文土器、弥生土器、須恵器(すえき)の3つの時代について、まだ歴史学習をしたことのない低学年にとってはほとんど知識がありません。しかし、実際に本物の土器片を直接手にとって見ると、形や色、厚さや肌触りなどそれぞれ時代による特徴や違いを見つけて、土器の分類に挑戦しました。

はにわ作り体験



土製品とは、土製の素焼きの出土品です。縄文弥生時代には土偶や動物形や人面をかたどった土器や古墳時代の古墳上に並べられた埴輪(はにわ)が知られています。静岡県では西部、中部を中心に「馬」のような形の動物をかたどった動物型土製品や「人間」をかたどった「人型土製品」が発掘されています。いずれも祭祀(お祭り)に関連して作られたものではないかと考えられています。

高温で焼かなくても素焼きの味わいのままに硬化するテラッコッタ粘土を使って、土製品作りに挑戦しました。何をしようか迷いながらも、夢中になって取り組む姿が見られ、それぞれに思いのこもった個性豊かな土製品が出来上がりました。